

令和7年度第3回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和7年9月1日（月）午前10時00分～午前10時41分

場 所：京都市役所分庁舎 地下1階会議室

出席者：

（委員、敬称略）東郷 寛（近畿大学経営学部教授）＜委員長＞
杉原 恵（一般社団法人 my turn 代表理事）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
松井 大治（公認会計士）
森本 純代（一般財団法人藤野家住宅保存会理事）
※ 城戸委員は欠席

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域コミュニティ・北部山間振興担当部長：馬場 保行

市民協働・市民活動支援課長：小林 寛

担当係長：別所 隆男

担当：高山 玲子、清松 建大

傍聴者：なし

取材者：なし

議 事：令和6年度市民活動総合センター評価報告書の検討

開催概要

1 開 会

2 議 事【個別項目評価】

<情報収集・提供事業>

意見なし

<相談事業>

（鈴木委員）

5段落目の「既存の営利企業自身」という箇所について、「営利企業」は人ではないので「自身」という文言を「自体」に変更してほしい。

<育成事業>

（鈴木委員）

スモールオフィスの記載で、「つながる」が続いて読みづらいので、「ネットワーク」等の文言を入れるなどしてほしい。

＜交流・連携事業＞

（東郷委員長）

市縁堂の寄付金について、目標額を設定するなどしているのか。

（事務局）

設定していない。

（東郷委員長）

活動を通して、取組を知ってもらうのも目的にしているのか。

（事務局）

そうである。毎年クリスマスシーズンにチャリティーコンサートを実施しており、子連れ含め多くの方に参加いただいている。寄付金については、コンサート後に募金箱への寄付を呼び掛けたり、お店等に募金箱を設置する等の取組を実施している。

（東郷委員長）

そういった連携から関係性が生まれてくるのは良いこと。

（東郷委員長）

みんなの文化祭について、いきセンとの全体的な交流は初めてか。

（事務局）

初めてである。これまで個別のいきセンとの交流はあったが、全体的な交流は初めてである。

（鈴木委員）

すべてのいきセンが参加したのか。

（事務局）

予定が合わないなどの理由で参加を見送ったいきセンもあったと聞いている。

（鈴木委員）

せっかくの良い取組なので、事前調整に余裕を持たせ、全いきセンが参加できる機会にしてほしい。

（森本委員）

視野が広がるいい機会に思う。刺激にもつながる。

（東郷委員長）

この事業を通して、どのような行動変容があったかは示してほしい。

（森本委員）

相互の強みを生かした連携が広げられれば良いと思う。

（東郷委員長）

地域の方にボランティア情報を提供する等、還元してほしい。いきセンは市民活動団体の情報に特化しており、しみセンであればボランティア情報に特化している。相互の強み・情報を存分に生かすのはいい案。

＜サービスの向上＞

（東郷委員長）

カスハラについては気になるところ。

（鈴木委員）

利用者側へのマナー啓発の取組はいいと思う。

＜施設管理＞

（東郷委員長）

アウトリーチ活動は「施設管理」の項目でよいか。

（鈴木委員）

「執行体制」の方が良いのではないか。

（栢井委員）

アウトリーチ活動に関する内容について、参考資料には「助言」とあるが、事業報告書には「指摘」と記載がある。委員会からの「指摘」か「助言」かどちらが適切なのか。

（事務局）

「助言」でいきたい。

＜執行体制＞

意見なし

＜財務状況＞

意見なし

【全体評価】

意見なし

（以上）